

# つれづれ けんちく 草

住まいについて、新型コロナ禍の巣ごもり体験から思うところを書き留めておきたいと思う。

一つ目に、住まいは「豊かに、快適に過ごす」場でなければならぬと強く感じた。断熱や空調設備によって、「快適な温熱環境を整える」のは基本的なことだが、この機会に住まいに手を加えて、快適に過ごせるように工夫したとの話も聞く。住まいは「関わりカスタマイズしやすい空間」であるべきだと思う。そして、住まいでのエンターテインメントの必要も生じた。動画視聴の会員になったり、YouTubeや録りためたビデオを見続けたり。あるいはペランダBBQや、テラスでボール遊びなど、自宅アウトドアレジャーを試みる人も。家で筋トレに励む人もあった。シアター空間やジム空間、その他住まいでの「楽しみの創出」をもっと考えてもよいのかもしれない。息の詰まる巣ごもり生活では、「ソトの空間を感じながら暮らす」ことができるだけでホッとする。これまで言ってきた中間領域の提案が生かされると思う。また、長い在宅期間に家族との交流を深めたという場合もあるが、逆に家族との密な関係に疲れたという声もあった。家族といえども、少し距離を置きたい場合もある。「他者との距離感の調整」をどのようにするのは過去のテーマの一つだと思う。さらに、家事負担がかなり増えたことを実感した。家族全員の1日3食を準備するのは大変だ。「家事負担を軽減し、家事を楽しむ」ための工夫を考えたい。一方で本格料理やお菓子作りに挑戦する人もあった。本格調理家電、おひとり様家電なども、この期間注目された。同時にゴミが増え、コンポストを思い始めたという話も聞いた。買い物物の頻度を下げようとまとめ買いをすれば、その置き場所や冷凍庫も欲しくなる。そんな広くはない住まいで、すっきりと収納し

家事を楽しむ空間づくりは、新たな家電の参入も考慮にいれる必要があるだろう。そして、この期間に痛感したのは、私たちが豊かさに通じる多くの「機会」を失ったことだ。人と会う機会、働く機会、学校で学ぶ機会。それだけでなく、子どもたちは文化祭や運動会等の行事を通じ、友と協力し、あるいはぶつかり合い、そして仲直りしながら共通の目的を達成していく・・・等という経験を通じ、人間として社会化されていく成長の機会まで奪われた。まず、私たちは何を失ったのか、を十分に考えなければならぬと感じる。そして、その「喪失した機会を、パーチャル技術」と、現実を組み合わせ、補完する」にはどうするか。「オンライン」でかきつることができると、しかし「オンライン」だけでは限界があることもわかった。住まいで何ができないのか、実現できることもあるはずではないかと思う。

二つ目に、『住まいで働く』ことが一足飛びに進行した。しかし住まいで照明計画・遮音計画・什器備品等の「働く環境を整える」ことが必ずしもできていない。雰囲気重視した照明は暗すぎる。家族による音が騒音となる、又は家族が迷惑を感じて、オンライン会議は常に車の中から参加したという話も聞いた。腰が痛くてオフィス用の椅子を買った、という人もいる。そして、「作業場所の選択肢を持つ」ことも望まれた。家族の中の複数人が、状況や気分に合わせて場所を変えて作業ができる方がよい。さらにオンラインなら住まいは職場の近くでなくても構わない。「田舎や郊外で暮らす」ことも関心を集めた。

三つ目に、『感染を乗り越える（感染を防ぐ・感染者と同居する）』ための工夫が話題となった。まず「風通しの確保」が必要だ。また、感染者と同居する場合に、「負圧ゾーンをつくる」提案もあった。そして

「設備の非接触化」は必ず進むような気がする。家に帰ると顔認証でロック解除、自動ドアで玄関が開き、そのまま洗面所に行き自動水栓と自動石鹸サーバーがあれば、手を洗うまでも触らずに済む。また、住んでいるだけでバイタルデータが蓄積される「健康管理を目的としたIoT住宅」を実験集合住宅「BOS」で提案しているが、これも関心を集めた。宅配BOXに代表されるような、「置き配スペース」を設けるのも有効かもしれない。

四つ目に、『暮らしを支えるシステム』の検討が必要だ。ずっと家にいるのでエネルギー使用量が増えた。さらなる「省エネルギーシステム」が望ましい一方で、エンターテインメントにも就労にも容量の大きな「電気・通信環境を整える」ことが必須である。そして、感染拡大時の被災を想定した「エネルギー等の自立システム」も必要だ。

これからは、IoT・コロナが当然という時代になるのかもしれない。ざっと羅列してみたが、眺めてみると、昔から考えていた提案してきたことの延長線上から逸脱しているとは思えない。住まいの本質をきちんと考えることは、人の幸せを考えることなのだから、それも当然なのかもしれない。

## 新型コロナ禍 の住まい

かも・みどり

京都大学大学院

工学研究科建築学専攻博士課程修了

博士(工学)・一級建築士

(一社)京都府建築士会 代議員

大阪ガス株 エネルギー・文化研究所 主席研究員

大阪商業大学 非常勤講師